

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500148		
法人名	有限会社グループホームひまわり		
事業所名	有限会社グループホームひまわり		
所在地	福岡県田川郡糸田町4143-1		
自己評価作成日	令和3年8月27日	評価結果確定日	令和3年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が何不自由なくのびのびと生活できる空間づくりをし本人、スタッフが一緒に苦楽を分かち合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員だけでなく入居者も心を得る内容の開所以来の理念の朝夕唱和は、日々の振り返りの機会となっている。自宅の生活の延長線がホームであると、各入居者の生活歴や職歴を熟知し、個々のプライドを尊重した声かけや対応が実践され、穏やかな入居者が多く入居者同士だけでなく職員とも仲が良い。医療機関との密な情報交換で篤い信頼を受け、中には「普通の暮らしをしてほしい」との主治医の意向で入居した方の状況報告に、「(入居したことで)たがが外れたのでは」との賞賛のアドバイスがあった。新型コロナウイルスのクラスターは関係機関の指導で収束し、町担当者との良好な連携で、環境整備助成金で自家発電機や陰圧機を設置している。高性能空気清浄器を導入するなど、一層の感染や蔓延防止策を講じ、家族と面会を支援している。今後も入居者の安心や安全な生活を守る支援で、さらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **ブロック1/有限会社グループホームひまわり**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に提示して、朝、夕のミーティング時を活用し全員で唱和している。又、振り返り等出している。	開所以来の理念は、職員だけでなく入居者も心得る内容で、夕方の唱和は振り返りの機会となっている。中でも噂話は秩序を乱すのくぐりは納得すると、職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が流行して以来、電話や書面等のやりとりに留まっている。	コロナ禍に配慮し地域行事も中止され、近隣での買い物などの折に地域の情報を得ている。地域柄、自治会加入も叶わないが、認知症や認知症ケアの相談や情報を発信する意向があることを、今後も地域にアナウンス予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスにより交流会は中止になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より会議の開催は無いが資料や議事録を送付し意見や行事等のお知らせを聞いている。	定期的に入居者の暮らしぶりやワクチン接種状況、感染防止機器の導入等を運営推進会議メンバーに報告し、書面にて意見を伺っているが、特段の意見はない。会議録は玄関で公表している。	会議設置目的に鑑み、コロナ禍で運営推進会議が中止されている現状から、全家族に会議録を送付し、意見の表出や意見を活かした取組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を開き情報の交換をしている。	新型コロナウイルスのクラスターは関係機関の指導で収束し、町担当者との良好な連携で環境整備助成金を申請し、自家発電機や陰圧機を設置している。管理者は、入居者が地域包括支援センター主催の認知症カフェなどに参加できる日を心待ちにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ケアマネージャー、スタッフ全員で取り組んでいる。又、研修の開催は無いが動画、配信等を活用し正しく理解するように努めている。	日頃から身体拘束はないが、オンラインによる身体拘束に関する研修で、具体的な内容を全職員に周知している。玄関は常に開放されているが無断外出はなく、車イスからの立ち上がりはサインを見逃さず転倒を回避している。言葉による拘束があれば、その場でお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフは虐待についても動画配信の研修を受け虐待のないホームをつくらせている。身体拘束廃止委員会は開催できていないが2ヶ月に1回議事録を各関係者に送付し意見をもとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	初めて成年後見人制度を活用したいと申出があり、スタッフに実践で学ぶ機会があり少しは理解できた。コロナ禍においてなかなか勉強会、研修と中止になっている。	成年後見制度利用予定の入居者は介護保健施設に転居されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット等を整備し、今後も活用を支援する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書は渡しゆっくりと目を通して頂いている。分からない事などは契約時、又、その都度説明し理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見、要望等を聞いている。	入居前に重要事項説書をゆっくりと読んでもらい、入居時に再度説明したり、今春は介護保険制度改正に関する案内状を送付している。入居者の状況変化は直ちに電話で連絡しているが、中にはラインで連絡する家族もあり、意見を伺う機会としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕のミーティング又、その都度気軽にスタッフが発信できる様にし対応している。	全職員参加の定期的なミーティングでは率直な意見交換が行われ、今回施設長の提案で高性能空気洗浄機エアドックを設置している。家族の意見などは、対応した職員がその場ではなく、管理者を通じて回答することを申し合わせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や家庭環境、技術力等配慮しつつ対応している。又、処遇改善加算も取り入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時に特に制限している条件などは無い。本人が習得しようとしている資格や習い事など出来る限り支援している。	20代～70代までの男女の職員が就労している。産休後職場復帰を希望する職員の家庭環境に配慮したり、リモートで認知症基礎研修の受講を支援するなど、生き生きと働ける職場づくりをしている。入居者と職員の仲が良くホームが温かく、入居者が安心できる排泄援助に感銘を受けたこと、そしてクラスターの発生に責任を感じて奮闘している施設長を尊敬していると話す入職3年目の職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	その都度、又はミーティング時に説明。パーソン・センタード・ケアの充実に努めている。	管理者は、「入居者を優先、業務は後回し」と、入居者の安心や安全な生活を守る支援に日々取り組んでいる。職員や入居者も、素直に謝ることや自分が嫌なことをしないなど、人としてのモラル周知を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会など参加は推奨している。オンライン研修なども活用している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染症が流行して以来色々な面で交流や勉強会などが中止になっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人や家族と面談し色々聞き取りし説明もしている。細かい部分については本人に聞きながらケアしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を踏まえて細かい所まで聞き取りしその都度対応している。又、ホーム内で出来る事、困難な事なども話す様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心配事や不安は早期に解決出来る様に本人の状態を見極めよりよい生活出来る様に提案したりよく話し合いをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がスタッフに対し配慮することなく発言出来る雰囲気作りをしている。例えば、つまずいたスタッフに「気をつけないとこけるよ」など日常的に会話がある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の報告や本人の希望を話し合ったり家族の協力の大切さスタッフとの関係づくりに積極的にとりくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や教え子の方の訪問や電話や手紙等を支援している。又、昔から利用されている美容院へ出かけたリ宗教関係の仲間などの訪問もある。	コロナ禍のため、訪問美容を利用し、宗教関係者の訪問は少なくなっている。家族から希望があれば、検温やマスクの着用、フェースシールドを使用するなどの感染防止対策を講じて、面会を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに声かけあって廊下ソファに座り音楽を聴いたりおしゃべりされている。それぞれの身の上話をされたり、困っているときは手伝う等よい関係が築かれている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を頂いたり返事を返したりしていたが最近はその方が高齢となり途絶えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人でそれぞれの希望や意向に沿える様に努めている。退院したばかりで筋力低下のある方は夜間のポータブルの使用、布パンツを利用したい方は希望に添えるようスタッフ全員で取り組んでいる。	生育歴や生活歴などをフェースシートに整備し、全職員で共有している。1日50~60回も顔を洗う入居者をそのまま受け入れタオルを用意したり、朝から大声で泣く入居者に管理者は「口で言わないと泣き損」と率直に問いかけ、思いを受け入れている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りをしたり担当CM,CW等から情報提供をお願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が変化や対応したことなどを記録したりすぐに相談、報告をする様にし現状を把握するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や支援のあり方は本人の要望の聞き取り、スタッフや家族の意見などを話し合いさまざまな視点で考えて作成できるようにしている。	介護計画に自筆でサインする入居者もあり、本人の思いを課題に明記し、既往症の再発を防止し笑顔で明るい生活を目標にした計画を作成している。介護計画作成担当者は、担当者会議で認知力低下の兆候や予防策を全職員で共有しながら、現状に即した表記を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICTを導入し情報共有がしやすくなった。介護計画だけでなく変化や見直しも共有しやすくなっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団、個人の支援を取り入れその都度希望や要望を聞き状態に沿ったサービスに取り組んでいる。又、車椅子や車の貸し出しなどにも応じている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染症に伴い色々な行事が中止となっている、又、以前の様にサークル活動(音楽活動)や糸田町のカフェなどに参加する予定。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ(主治医)は出来るだけ継続できる様にしている。又、専門医の受診に合わせ訪問診療を月2回、訪問看護師を週1回利用できる様に対応している。	入居に際し、主治医等医療関係者と密に情報を交換し受診につなげているため、医療機関から篤い信頼を受けている。中には「普通の暮らしをしてほしい」との主治医の意向で入居した方の状況報告に、「(入居したことで)たがが外れたのでは」との賞賛のアドバイスがあった。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や食事摂取量、受診時の検査結果の報告など一人一人にあわせて対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、目標設定をしている。DrやSWとこまめな連絡をとりあい相談や話し合いをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談したことを書面に残している。又、遠方の方には救急搬送した時点の取り決めなどもしている。	入居時に救急搬送時の取り決めを話し合い、家族の意向や相談内容を整備している。寝たきりでも経口摂取できる限りはホームでと、プレートに以前好んで食べていた物を少量ずつ並べて本人に選んでもらっている。ホームでの看取りは迷惑をかけるからと、家族が救急搬送を希望され救急車内で逝去された方もあったが、家族からは大往生だったと謝辞があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で研修に参加できていないがマニュアルを確認したりその都度話をしたりしている。利用者の医療ケースの中に一人一人の既往歴を書いたカードを入れている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一番に命を守ることを前提に避難を優先することはスタッフは出来ている。(実際の避難でも学んだ)糸田町役場より防災ラジオの配布もあった。	配付された防災ラジオの活用はないが、2年前の大雨時の避難は、入居者の状況を行政担当者が理解する貴重な機会にもなっている。3日間稼動する自家発電機を設置し、今年度中に緊急通報システムの点検や消防署と連携で避難訓練を予定している。	備蓄一覧表の作成はもとより、3年間の猶予で義務づけられている自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画策定に、水害時の避難や、新型コロナウイルスのクラスター発生時やその後の対策を活かされることを期待します。

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	異性の介助が苦手な利用者には要望を聞いて対応している。目上の方という観念を持ち対応するように努めている。	全職員が各入居者の生活歴や職歴を熟知し、個々のプライドを尊重した声かけや対応が実践され、穏やかな入居者が多く入居者同士の仲が良い。自宅の生活の延長線がホームであると、訪室時はノックや声掛けが励行され、入居者の洗濯物は個別に洗っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく本人が選択できる言葉かけや対応の仕方を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自分の感覚やペースで過ごしている。洗濯や新聞折、食後の引き膳する方その時にやりたいこと、出来ることをできるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やローション、ヘアクリーム、カラーリング、散髪、訪問美容師、多様面に渡って支援できるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症に伴い現在は台所への出入りはできないが、お茶の時間のコップを洗って持ってこられたり食後の引き膳など自分で出来ることを自らされている。	新型コロナウイルスのクラスターが発生した今年2月から、食堂ではなく居室での食事を支援している。入居者の希望で週1回昼はパン食を楽しみ、おやつケーキは職員が手作りしているが、誕生日は市販のワンホールケーキで個々に祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー、とろみ、きざみ、魚の骨取りなど個人に合わせた食事を提供している。フタ付きコップや水筒など本人重視にした支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守りで出来る方、準備が必要な方、介助の方など毎食後実施している。又、訪問歯科を週1回～2回程度利用し口腔内、歯、義歯全体を診てもらって衛生を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	たまに失敗はあっても本人の希望により布パンツを使っている方はおられ夜間はポータブルトイレを使用の方、リハビリパンツを使用しているも日中共同トイレへ誘導し排泄の促しをする等こまめに取り組んでいる。	布パンツからトレーニングパンツへの履き替えは時間をかけて馴れてもらい、入居者の分かる場所にパンツや尿取りバットを準備し、自分で履き替えができるように支援している。おむつ交換時の声掛け、おむつやバットの当て方を指導者より教わり、入居者の心地よさに差がある事を実感したと話す職員もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、おやつに食物繊維を含む物や乳製品、果物など提供している。状態によっては服用薬を検討しスタッフ全員で取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日おきだが、(入りたくない。明日入る。)などさまざまあるが、あくる日に入って頂いている。二人介助の方は個別に支援しその方のために入浴することもある。羞恥心の配慮に同姓のスタッフが対応したりしている。	入浴を楽しんでもらいたいと、石鹸やボディタオルに配慮しているが、好みの石鹸等の持ち込みもある。羞恥心に配慮して異性や若い職員の介助を止めたり、車イス使用や褥瘡のある場合は、職員2人体制や午前中に対応するなど、状況に応じて支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下のソファや居室、思い思いの場所で昼寝をされたり、消灯時間の決まりは無く生活に支障がない程度の夜更かしは良しととらえている。不穏時は付き添い話を聴くなど安心して眠っていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用開始時に服薬管理が出来ていない方は主治医に連絡し把握している。退院後はサマリーの確認し受診時の変更時はミーティングなどで伝え個人記録に薬状を提示し副作用が出た時は主治医に連絡を取り指示を仰ぐなどしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症に伴い野外活動が出来ていない為、食事の工夫をし、なるべく季節の物を取り入れている。又、簡単なケーキやスイーツなども手作りし、嗜好品は個別に対応し近くのお店にスタッフと一緒にマスク着用にて出かけている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症が流行してからは遠足や外食は制限させてもらっている。近くのお店までの外出のみとし必ずスタッフと一緒に外出して頂いて家族、本人に理解して頂いている。	コロナ禍で外出を控えているが、マスク着用で職員と近隣の店舗まで出かける入居者もある。コロナが収束した折には、これまでのように寿司や焼き肉等の外食に出かけたい、美味しい物を食べに行きたいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る方以外の利用者は家族、本人、スタッフと相談し所持する金額を決め(500円～3000円程度)又は必要に応じて事務所の預かり金の中からその都度渡す様にスタッフも把握するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも申出により電話は掛けられるようにしている。又、携帯電話を所有している方もおられ使い方の支援など対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体の掃除や空気清浄機の設置、共同トイレに消臭芳香剤や換気を行っている。全体の湿度や臭いが気にならないように換気もおこなっている。	スロープが設けられた玄関は大きく開放され、ホール中央のパーテーションで仕切られた食堂や居間は、高性能の空気清浄器の設置で快適で安全な空間となっている。職員が持参した季節の花が要所に飾られ、入居者はマスク着用で密を避けて居間で音楽を楽しんだり、廊下のソファで寛いだりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体にソファなど設置し思い思いの場所でくつろげる様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を本人、家族、と相談しながら配置しフローリングや畳の部屋がありペットや布団を選ぶ事が出来る。	感染防止に配慮し、居室の視認はせず管理者からの聞き取りとした。日用品だけでなく、冷蔵庫、仏壇が持ち込まれた居室もあり、自宅での生活の延長線上にあるホームの暮らしを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた居室作りをしている。カレンダーや時計などを準備し又、冷蔵庫などの家電が使われている利用者があり、自立した生活が送れるように支援している。		